

兵庫県内の交通課題解決に向けて

兵庫県内では、特に尼崎市から姫路市の臨海部をはじめ、宝塚市、川西市、三木市などの市街地において自動車が増加し、沿道環境の悪化や渋滞などの問題が生じており、自動車から公共交通への利用転換など都市交通の環境改善が求められています。



自動車は、快適な空間の中で、いつでもどこでも手軽に利用できるなど多くの利便性を持つ交通手段です。しかし、必ずしも自動車利用が合理的でない場合でも、つい自動車を利用してしまったり、その利用が習慣化しやすい側面を持っています。

こういった背景のもと、ひとりひとりにかきこい交通行動をするように働きかける**モビリティ・マネジメント（MM）**施策が注目を集めています。

兵庫県では、全国に先がけて、モビリティ・マネジメント施策の社会実験を行ってきました。これら先進事例で得られた知見をもとに、今後積極的にモビリティ・マネジメント施策を展開する必要があります。

本パンフレットを参考に、モビリティ・マネジメントの基本的な手法や具体的なフロー等についての理解を深め、施策を推進していただきたいと考えています。

モビリティ・マネジメントとは・・・

モビリティ・マネジメント（Mobility Management：MM）とは、渋滞や環境、あるいは、個人の健康等の問題に配慮して過度に自動車に頼るライフスタイルから適切に公共交通や自転車などを『かきこく』使うライフスタイルへの転換を促す一般の方を対象としたコミュニケーションを中心とした交通施策のことをいいます。

モビリティ・マネジメントによる働きかけ

モビリティ・マネジメントの実施にあたっては、目的や地域特性に応じて、適切な対象を選定し、適切な働きかけの手法を選定することが重要です。

何のために働きかけるか

→地域特性と課題に応じて、目的を設定

目的

例えば、これまでの事例では

- ・道路混雑の緩和を目指して交通需要量を調整する「TDM（交通需要マネジメント）施策」としてパークアンドライド駐車場設置などの対策を行った後、さらに、その効果を高めるためにソフト面での施策を併用したい。
 - ・駅前でのマイカーの混雑を減少させるため、少しでもバスを利用してもらいたい。
 - ・事業所へ通勤する自動車を減らして、環境への負荷を減らしたい。
- などの狙いで、モビリティ・マネジメントによる働きかけが行われました。

誰に対して働きかけるか

→ターゲットは誰で、どのような交通行動を対象とするかを明確に

対象

住民	地域の住民ひとりひとりへ 世帯単位へ 自治会や団体を通じて 地元のキーマンを通じて 地域の交通事情に乏しい転入者へ など	職場	民間企業へ 市役所へ など
		学校	学校の生徒へ 小学校の総合学習の時間を活用して など

どのように働きかけるか

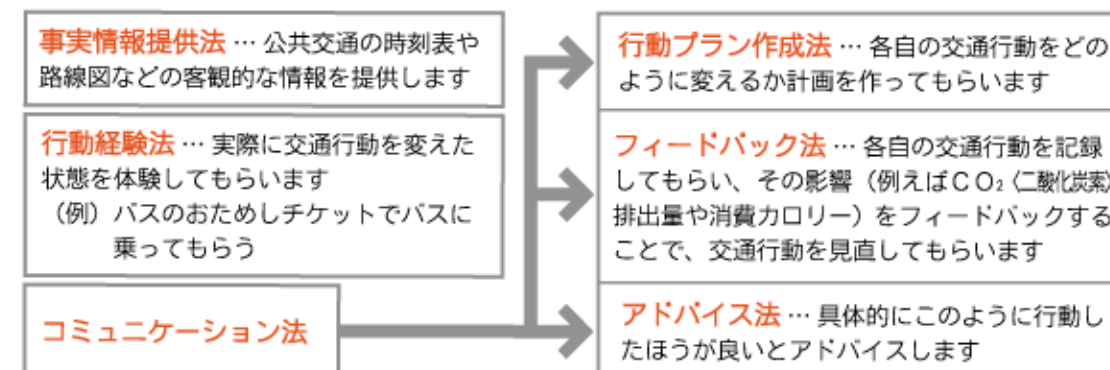
→目的にあわせて手法を選定、効果的に組み合わせて実施

手法

使用する媒体としては・・・

書面でのアプローチ アンケートや冊子など印刷物	インターネットでのアプローチ アンケートなど	対面でのコミュニケーション ワークショップやイベントなど
----------------------------	---------------------------	---------------------------------

働きかける方法としては・・・



次ページ以降、具体的なフローや具体例を紹介します。